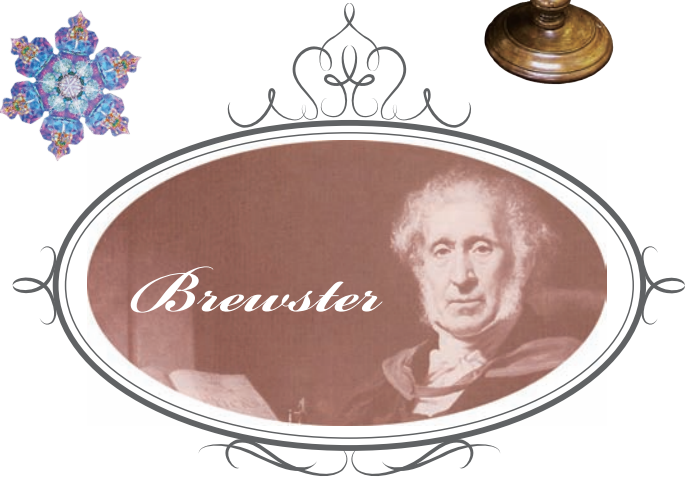
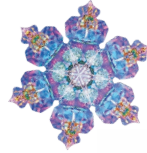


ご存知でしたか？万華鏡には歴史があります。

万華鏡の歴史

万華鏡を発明した人

万華鏡は1816年にスコットランド（現在のイギリス）の物理学者デビッド・ブリュスター博士（1781-1868）によって発明されました。博士は12歳でエディンバラ大学に入学を許可されるほど神童でしたが、子供の頃自然から多くを学び、10歳の時には望遠鏡を制作していました。20歳の頃から光学の研究を始め、35歳の時に灯台の光を研究している時に万華鏡を発明しました。特許の申請処理に不備があり手間取っている間に、商人達によって万華鏡が作られてしまい、1817年に特許が取れても博士にはなんの利益にもなりません。1832年にウィリアム4世によりナイトの称号を与えられました。科学者としての功績以外に、百科辞書の編集、伝記（アイザック・ニュートンの生涯 他）の執筆など数々の功績を残しました。



デビッド・ブリュスター博士（1781-1868）

万華鏡の普及



万華鏡が発明された頃は、高級な光学製品として扱われていましたが、紙製筒型の万華鏡の出現により子供のオモチャとして世界中に普及しました。日本に初めて万華鏡が紹介されたのは、万華鏡が発明された3年後の1819年です。当時は、大名や豪商たちの貴重な玩具として扱われていました。はじめは、百色眼鏡（ももいろめがね）、錦眼鏡（にしきめがね）、錦繡毚毚鏡（きんしゅうあいたいきょう）、更紗眼鏡（さらさめがね）、等いろいろに言われていました。その後中国語の万華筒と鏡と一緒に万華鏡という呼称が一般的になりました。外国では、ギリシャ語のKALOS（美しい）EIDOS（形）SCOPE（見る）からできたカレイドスコープ（KALEIDOSCOPE）が一般的です。



錦繡毚毚鏡（きんしゅうあいたいきょう）



万華鏡の今

1982年11月号の Smithsonian 誌の万華鏡紹介記事をきっかけにアメリカで万華鏡の紹介が活発になり、新しいタイプの作家達が誕生します。それまでの万華鏡は大量生産によるオモチャが中心だったのが、このとき紹介された7人の作家により新しい創造性のある万華鏡がつくれ、オモチャからアートへと発展してゆきます。1985年には、コージー・バーカー女史が世界ではじめて万華鏡の展覧会を開催。その影響は大きく想像力豊かな作家達は、新しい素材と技術をとり入れ万華鏡の世界を広げています。日本では90年代中頃より本格的な万華鏡の紹介がはじまりました。2000年には現在も日本の万華鏡の中核を担う、銀座ヴィヴアン・国際万華鏡協会が、おかざき世界子供美術博物館において日本ではじめての本格的な紹介展が開催されました。

